

一般入試前期A日程2日目

英語

I

■出題のねらい

日常的な会話の内容を正確に理解する力を問う問題です。2人のやりとりを見失わないようにしながら、細かい情報を読み取りましょう。空所補充問題は、特に空所の後の会話をしっかり読みながら、文脈に合う選択肢を選ぶ必要があります。内容読解問題は、話者が2人いるので、どちらかの人物について当てはまる内容なのか、それとも両方の人物について当てはまる内容なのにも注意しながら読み進めると、正答にたどり着けるはずです。

■採点講評

1 と 3 は正答率が8割を超えており、全体的な会話の流れをつかめていた受験生が多かったようです。残りの3つの問題は、いずれも4割後半～5割の正答率でした。不正解の選択肢の中で多くの受験生が選んだ選択肢は、4 の①（3割半ば）でした。Kenはコーヒーメーカーを探しますが、ホテルの客室内にあったのは、電気ポットであり、コーヒーメーカーではなかったという個所まで読む必要があります。キャビネット内の冷蔵庫の隣という位置情報が一致した個所を読み、①を選んでしまった受験生が多かったように思います。しっかりと最後まで読みましょう。

II

■出題のねらい

Eメールを読み、ポイントとなる情報を的確に読み取る力を問う問題です。まずは差出人と受取人の関係性を把握し、このEメールが会社側から採用候補者に送られた、面接の結果を伝える内容であること、そして結果は不採用ではあるが別の職を提案している点を把握する必要があります。そのうえで細かな情報をしっかりと読み、正答を導き出しましょう。

■採点講評

7 と 9 はそれぞれ6割近くの正答率でしたが、残りの3つの問題は、いずれも3割の正答率であり、全体的に難易度が高かったようです。ビジネスメールになりますので、受験生の皆さんには馴染みが薄い内容だったかもしれませんが、ビジネス系のトピックにも慣れておくようにしましょう。不正解の選択肢の中で3割以上の受験生が選んだ選択肢は、6 の③、8 の④、10 の②です。特に10 の②を選んだ学生が最も多かったです。4月13日までに、アレックスが会社に回答を知らせるのであって、会社側からアレックスに知らせるわけではありません。差出人と受取人の立場を混同しないように気をつけましょう。

III

■出題のねらい

英語の基本構文・基本熟語の知識を問う問題です。構文や熟語の知識は、英文法の知識とも関連し、英文読解の基礎でもあります。「なんとなく」ではなく、正確に正答を選ぶことができるかが問われています。

■採点講評

関係代名詞と動名詞を問う [14] や、“It is not until ~ that …” を問う [15] は正答率が5割半ば～6割で、基本的文法や表現力の定着には一定の水準が見られました。[16] の“neither A nor B”は、主語をどちらに一致させるかを問うています。話し言葉などの場合に複数形で受けることもあるので②を選んだ受験生もいましたが、原則はどちらなのかをまずは頭に入れておきましょう。[12] の仮定法のifの省略と倒置、[17] の分詞構文はかなり難易度の高い問題で、2～3割の正答率でした。

IV

■出題のねらい

人工知能を活用した子育て機器が人気であることを中心に、現代の子育てを巡る問題に焦点をあてた英文記事です。文章をよく読み、その背景や問題点、今後の課題について正確に読みとることができるかどうかを問うています。全体の大まかな流れをとらえ、個々の問題で問われる情報を短い時間で正確に見つけ出す力も大切ですが、表面的な理解だけでは正答にたどり着けない問題も織り交ぜています。難易度の高い単語の意味も、文脈をしっかりと読み込むことによって推測できるはずです。論理的な考察力も重要なポイントです。

■採点講評

全体的にまずまずの出来でした。[18]、[19]、[21]、[22]は、約7割の正答率でした。一方で[20]は2割半ばの正答率でした。熟語を覚えるのは大変ですが、地道に頭に入れていきましょう。その他の問題は4割程度の正答率でした。[23]に関して、正答の④よりも、②を選んだ受験生が多くいました。“according to～”は出典を表す「～によると」の意味がまず頭に浮かぶため②を選んだものと思われます。しかし、今回の本文では「～に応じて」の意味で用いられています。長文問題の場合は、前後の文脈をしっかりと読むことが大切です。

V

■出題のねらい

ネアンデルタール人とホモサピエンスの勢力の入れ替わりに関する英文です。並べ替え問題では、間違いにはならなさそうな紛らわしい単語が選択肢に含まれていますので、前後の文章を正確に読み、文意を推測しながら読む必要があります。また、内容理解の問題は、記載されている数字を表面的になぞるのではなく、英文から内容をしっかりと理解したうえで解答する必要があります。型にはまった英文法の知識やストラテジーとしての解法に頼るのではなく、普段から正確に英文を理解しながら読む習慣をつけましょう。

■採点講評

29 と 30 はそれぞれ5割程度の正答率でしたが、31 と 32 は2割程度の正答率でした。30 は⑤が正答ですが、④を選んだ受験生が2割弱いました。この中で述語動詞になれるのは④の“remains”のみであり、“considering”では述語動詞にはなれません。英作文の際は、まずは主語と述語動詞が正しくあるかどうかをチェックしましょう。31 は①が正答ですが、4割近くが②を選んでいました。文法的に文章を組み立てるだけだとどちらも正答に思えますが、前後の文脈から①が正答となります。問題となっている文章だけではなく、前後もしっかりと読むようにしましょう。32 は、本文の英語を正確に読んだうえで、計算をする必要があります。確信を持たず判断に迷う場合は、消去法で不正解の選択肢を排除して正答にたどり着くのも一案かもしれません。